

平成29年度 学校評価報告

兵庫県立姫路商業高等学校

[内部評価] 対象：各部・学年

A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|------|---|---|----|---|---|
| 総務 | (1) 各部・各学年・各科との連携を密にし、学校全体の円滑な運営に努める。 | 芸術鑑賞会等急に新たな行事が入ったりしたが、校務運営委員会等を通じて、スムーズな運営を図った。 | A | 年間行事予定の急な行事追加等があった。 | できる限り、年間行事予定の計画段階で、しっかり計画をたて、余裕をもって実施にあたる。 |
| | (2) P T A・琴陵会（同窓会）・地域・その他関係団体との連携を図り、活力ある開かれた学校づくりの推進に努める。 | P T Aの組織・連携の整理、見直しを行った。 | B | 地域・その他関係団体とのさらなる連携を図る。 | 行事の精選を行いながら、さらなる連携を図る。 |
| 教務 | (1) 自ら学び、自ら考える力を育成するため、各教科内研修（公開授業）を推進し、授業改善を勧める。 | 6月と11月に公開授業週間を設定し、各教科での授業の研修を促し、自己研鑽に努めるように促した。 | B | 公開授業週間に参加する保護者が少なかった。 | 案内・メール以外に保護者への周知徹底を積極的に行う。総会などの機会に積極的にアピールしていきたい。 |
| | (2) 基礎・基本の定着を図るため、少人数指導・複数担当授業など指導の工夫改善に努める。 | 多様な生徒の存在と進路に関する要望を実現するために、評価に関する教務内規の見直しを行った。 | A | 今後も要支援の生徒や配慮を要する生徒に対し、キメの細かい指導を考えていく必要がある。 | 保健部との連携を密に生徒支援を考えていきたい。現在一部の教科で授業評価アンケートを実施している、学校全体の取り組みとしたい。 |
| | (3) 個に応じた学習指導の徹底を図るため、生徒の達成状況を的確に把握し指導と評価の一体化を図るように努める。また一人ひとりの進路実現を目指した指導に努める。 | 商業科の要望により今年度も検定前特別授業を行い合格率向上に貢献した。就職や進学に必要な数学Aを選択から必須に教育課程を見直した。 | A | 希望者が少ない講座が開講できず、選択の組み合わせ等を考える必要がある。 | 選択科目の精選や組み合わせを今後も課題として取り上げていく。 |
| 生徒指導 | (1) 全職員の合意をはかりながら、生徒の問題行動などに協力して対応する。 | 生徒指導委員会のメンバーを増員し、より多くの意見が反映されるようになった。 | A | いじめ問題で画一的に対応することが難しくなった。 | 指導の段階を細かく決め、個々の事例への対応にあたる。 |
| | (2) 自転車通学生が大部分である現状を踏まえ、交通マナーの向上と交通安全の高揚を図る。 | 学期3回の交通安全運動（下校時）、仮想事故再現講習会を行った。 | B | 1年生1学期の交通事故が多い。 | 飾磨警察と連携を図り、新入生対象の交通安全教室を行う（応募中） |
| 職業指導 | (1) 自らの能力と適性をしっかり自覚し、その伸長が図れるよう、組織的、継続的な指導體制の充実を図る。 | 定期的に三就会（3年生と職業指導部の会議）を実施し、学年との連携を図った。 | B | 2年生・1年生との定期的な会議ができなかった | 2年生・1年生との定期的な会議を実施し、情報共有を行う。 |
| | (2) 変化の激しい現代社会にあって、経済生活に適応できるよう、望ましい職業観や勤労観の育成と進路指導の向上を図る。 | 生徒・保護者のニーズに合った求人開拓を積極的に行った。多業種・多職種な企業等の卒業生を招いた「卒業生を囲む会」を実施。応募前職場見学を積極的に行った。（3年） | A | 部活動の試合等で「卒業生を囲む会」への不参加生徒がいた。部活動の試合等でインターンシップへの不参加生徒がいた。 | 卒業生を囲む会の時期を検討する。教育課程の内外を通じて実施できるよう検討を行う。 |
| | (3) 各学年の主体的な進路選択能力の育成を図るために適切なサポートを行う。 | 春夏インターンシップ、職業講話、就職ガイダンス、企業見学の実施。（2年） 生徒向け・保護者向けの進路説明会の実施。公務員希望者向けガイダンス、学習会の実施（全学年） | | | |
| 進学指導 | (1) 進学指導部と学年がお互いに連携を持ち、有機的に機能する組織と体制を確立する。 | 毎週の進学委員会により、学年との情報交換を定期的に行った。定期的に3学年との会議を持ち、学年との連携を図った。 | A | 各学年に対し、進路指導についての情報を必要なタイミングで繰り返し提示できなかった。 | 定期的に各学年との会議を持ち、学年との連携を図る。 |
| | (2) ホームルーム・進学ガイダンス・カウンセリング等を通して、生徒に目的意識を強く持たせ、やる気を起こさせる指導方法を常に追究し、実践する。 | 3年生の進学希望者全員に個別に進路相談を行い、各々の生徒に具体的な目的意識を持たせ、進路実現にいたる指導を行った。生徒・保護者向けの進路説明会（全学年）を実施した。 | B | 生徒に目的意識を持たせ、進路実現する方法を指導する進路ホームルームの内容について、学年と連携をとることができなかった。 | 3年間を見据え、生徒に目的意識を持たせ、進路実現に向けてのガイダンスや進路ホームルームの内容・持ち方について学年と連携を図る。 |
| | (3) 生徒一人ひとりについて、各種資料を活用し、自己理解を深めさせ、主体的に進路選択・決定ができるよう援助する。 | 進学関連資料室の整備を行い、学校案内や過去問題の進学資料や新聞・問題集等を適宜ストックし、生徒に必要な情報が随時提供できるようにした。 | A | 主体的に進路実現に向けて動けない生徒がおり、自ら情報収集を行っていない。 | 「進路の手引き」を活用し、各年次ごとに生徒がやるべきことを自覚させる。 |

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|-------|--|--|----|--|--|
| 人権・図書 | (1) 人権教育映画鑑賞会、人権教育講演会、ロングホームルーム等を活用し、生徒の人権意識を高める。 | 生徒は、部落差別に対する知識を得ることができ、また部落差別はいけないといった意識は持てるようになった。 | A | 生徒の事後感想文に、「部落差別がなくなってほしい」といった他人事のようなものが多く、これからは積極的に部落差別解消に取り組む生徒の育成が課題である。 | 人権推進委員会等の各担任の意見を参考に、ロングホームルームの指導案の工夫が必要である。 |
| | (2) 人権教育推進委員会を年6回行い、各学年・各部署との緊密な連携を図る。 | 滞りなく、人権教育映画鑑賞会、人権教育講演会ロングホームルーム等が実施できた。 | A | 各学年や担任、生徒指導部との連携により、学年やクラス、部活動におけるいじめ等の人権にかかわる事案の把握が不十分であった。 | 人権推進委員会ばかりではなく、日々の教育活動を通じて、連携をさらに深めていく。 |
| | (3) 全教職員による人権教育研修会を年2回実施し、教職員の知識の向上と、人権感覚の涵養を行う。 | 各担任は、研修内容の成果をロングホームルーム等で活用することができた。 3学期のまとめのホームルームでは、各学年が工夫して計画を立案し、実施することができた。 | A | 生徒の差別解消のための実践力を養うような指導をいかに行うかが課題である。 | 人権研修会等で、生徒が差別解消の実践活動できるような指導を行っている講師等に講演をしてもらう。 |
| | (1) 図書委員会を毎月実施し、生徒の図書館の活用を促進する。 | 図書委員長を中心に図書委員としての自覚を促し、図書業務の運営を徹底することができた。 | A | 図書委員が前期・後期で役員が変わるクラスがあり、図書業務が継続して行いきにくい。 | 図書委員は役員任期を1年にすることが望ましい。 |
| | (2) P T Aの図書購入についての選定は、図書委員に責任を持たせて実施する。 | 三役を中心に購入基準を自分たちで決め、自主的に選定が行えた。 | B | 図書購入希望者が限られていて、ジャンルに偏りがある。 | 限られた予算ではあるが、できるだけ多くの生徒から希望を募れるようにし、教師の推薦図書も加えながら幅広い視点で選定を行いたい。 |
| | (3) 『図書館便り』を毎月発行することにより、生徒に読書に対する興味を持たせる。 | 図書委員の分担で毎月、図書館便りを作成し、各ホームルームに掲示することができた。 | B | クラスによっては、図書館便りが掲示されていないところがあり、図書委員会で徹底をはかる。 | 図書館便りは各教員に配布しているが、クラス掲示用は図書委員自身が掲示するように促す。 |
| 保健 | (1) 校医・家庭と連携して、生徒が主体的に健康の保持増進に努める習慣を養う。 | 学校医による各種検診を実施し、生徒に自身の健康状態を把握させた。保健だよりを発行し、健康への意識向上を図った。 | A | 自身の健康に対してより敏感にさせる必要がある。 | 保健だよりや保健委員をとおして、健康に対する情報提供の機会を増やす。 |
| | (2) キャンパスカウンセラーを中心に教育相談活動の充実に努め、教職員を対象とした研修を実施し、カウンセリングマインドの向上を図る。 | キャンパスカウンセリングを年間25回実施し、生徒・保護者あわせて延べ64名が利用した。相談内容は不登校、学校生活、友人関係、家族関係、身体・健康などであった。 | A | 多様な生徒に対応するため、職員研修をより充実させる必要がある。 | キャンパスカウンセラーや関係機関との連携を密にし、現状に即した研修の実施を行う。 |
| | (3) 清掃美化活動を徹底するとともに、資源ゴミの分別処理を通して環境問題に対する理解と関心を高める。 | 生徒の保健委員をつうじて、清掃美化活動への関心を高めた。ふるさと貢献事業として、学校近隣の清掃活動を実施した。 | B | 資源ごみの分別が徹底されておらず、ゴミ集積所での分別作業が煩雑であった。 | 各教室の段階で分別処理が徹底できるよう、職員・生徒へ呼びかけを行う。 |
| 商業 | (1) 個々のニーズや時代の流れに合わせた、商業の教育課程を確立する。 | 教育課程を表記方法も含めて見直しを行い、学校設定科目の申請を行った。 | A | 教育課程について、さらに分かりやすい表記方法の検討が必要である。 | 生徒、保護者向け、中学生向け等掲載物にあった、教育課程の表記を行う。 |
| | (2) ビジネス教育について、質の高い指導方法を確立する。 | ひょうごの達人招聘事業、特別非常勤講師を活用した。 各種研修会への参加を呼びかけた。 | B | 各種研修会への参加は呼びかけたが、なかなか積極的な参加はなかった。 | 参加しやすい環境作りを含め、引き続き参加の呼びかけを行う。 |
| | (3) 検定資格をできるだけ取得させ、知識や技術を修得させた上、実学を経験させることにより、いきいきとした学習活動を確立する。 | 検定取得のための検定前特別授業を行い、多くの取得があった。 1日だけではあったが、販売実習を行った。 | B | 検定を受験しない者の特別時間割での、学習内容の検討が必要である。 より充実した販売実習の実施を検討する必要がある。 | より効果的な特別時間割の活用方法の検討を行う。 実施時期・参加生徒等販売実習について、再検討の必要がある。 |
| 情報科学 | (1) 情報技術・工業科目の理解 | 基礎・基本は理解しているように思う。 | B | 長期休業中の課題の出し方などに工夫を凝らし知識を確認させている。 | 情報社会を生き抜くための必要不可欠な学習であることを粘り強く伝えていく。 |
| | (2) 各種情報処理技術者試験・資格取得 | 例年並みの合格取得状況である。 | B | 新たな国家資格が追加実施されるため、到達目標の設定がいる。 | 資格取得についての動機づけをしっかりと行う。 |
| | (3) 実習科目を通してコンピュータ利用技術の向上 | 決められた時間内に成果物が提出されている。 | B | コンピュータシステムの機器更新に伴うスキルアップが必要である。 | 最先端の情報機器を活用しながらの今後の授業展開を考える。 |

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|-------------|--|---|----|---|--|
| 1 学 年 | (1) 社会で必要とされる人材育成・基本的生活習慣の確立 | 学年集会をとおして注意喚起している。 | B | 欠席者が多く、学年全員が揃う日が少ない。 | 根気よく指導を続ける。 |
| | (2) 学習環境・学力向上指導 | 全商検定を目安にすると例年並みであるが、各教科の成績では成績優秀者も学期末ごとに増えた。 | B | 特定の生徒において欠点保有数が多い。学年で早朝・放課後の学習指導を行っている。 | 日々の学習習慣を身に付けるための指導を根気よく継続する。 |
| | (3) 規則・規律の遵守 | 学年全体としては守れている。 | B | 若干名の生活指導を行った。 | 学年集会・学級単位で、日々、指導する。 |
| | (4) 進路指導・選択教科についての懇談 | 1学期末より選択教科・進路指導を行った。 | B | 具体的な進路を想像できない状態が多く、選択教科を決めるにも時間を要した。 | 急かさず、時間を十分とれる時期から案内する。 |
| | (5) こころの相談・カウンセリング紹介 | 数名の生徒が長欠ぎみになったが、復活して登校に至った。保護者の利用もあった。 | B | 再発する可能性がある。 | 長期休業後に不安を抱える。 |
| | (6) 家庭や地域社会との連携・家庭訪問など | 必要な家庭に家庭訪問はできた。学科によっては企業見学会の形で企業と情報交換ができた。 | B | 地域社会との連携をとる機会がない。 | 愛城会などの清掃活動をとおした地域連携はあるが、これ以外に時間が取れない。1年としての目標をたてる。 |
| 2 学 年 | (1) 基礎学力の定着と、個々に応じた学習指導 | 日々の学習を大切に、少人数制を導入。キャリアプラン実現に向け、キャリアアップに努めた。 | B | 学習意欲をいかに継続させられるか。 | 学習習慣の確立と根気強く指導する。 |
| | (2) 集団の規律を重んじ、学校行事に積極的に参加 | 修学旅行、体育大会、文化祭等を通して、クラスの団結とクラスの決まりや学校の規則を順守する態度が身についた。 | B | SNSによるトラブルがあった。 | 相手の身になって考えられるよう指導する。SNS使用の講演会実施。 |
| | (3) 基本的生活習慣の確立 | 積極的に自ら挨拶する。欠席・遅刻をしない。五分前行動を目標に掲げ、日々努力できた。 | B | コミュニケーションが取れない生徒が増えた。 | 共通理解をし、改善に努める。 |
| | (4) 進路指導と指導助言 | より具体的な行動に移す意欲が高められるよう大学見学・インターンシップ・企業見学及び就職・進学ガイダンスを実施。積極的に生徒とかわかれた。 | A | 企業や大学に任せっきりにならない。部活動との兼ね合い。 | 指導体制の確立。連絡を密にとり、改善を図る。 |
| | (5) 家庭や地域との連携 | 学年通信の発行、三者面談及び保護者説明会等を開催し、保護者との連携に努めた。インターンシップや企業見学を実施し、地元企業との連携を深めた。 | B | 部活動や他の行事との兼ね合い。 | 行事の検討と精選。 |
| 3 学 年 | (1) 自ら学び、自ら考える態度を身につけ、社会に通用する人材を育成する。 | 部活動との両立において時間の使い方、学習方法を工夫し、好成績を収める生徒が多数。 | A | 意欲に乏しい生徒が一部見られた。 | 学習表などの工夫をして学習習慣を確立させる必要がある。 |
| | (2) 知識・技能の確実な習得を図り、より多くの検定合格を目指す。 | 検定に積極的に取り組む生徒が多く見られた。 | B | 極端に資格取得の少ない生徒がいる。 | 部活との兼ね合いを調整する必要あり。 |
| | (3) 集団の規律を重んじ、社会性、協調性を身につける。特に挨拶の励行に重点を置き、コミュニケーションを大切にしている。 | 挨拶はしっかりできており、校則もよく守られている。 | B | SNSなどでのトラブルが数件あった。 | コミュニケーションの本当の意味を教育する機会を設ける。 |
| | (4) 基本的生活習慣の確立を目指し、安全教育を徹底する。 | 無遅刻・無欠席の生徒が多くいる。事故も少なくなった。 | B | 進路決定後の欠席が増えた。 | 新たな明確な目標を設定する。 |
| | (5) 主体的な進路選択が出来るよう個々に、応じた細やかな指導・助言をする。 | 担任・専門部等による面談もあり細やかな指導ができた。 | B | 進路指導室の活用を活発にしたい。 | 早めにガイダンスを行い意識付けをする。 |
| | (6) 家庭や地域との連携を密にする。 | 学年通信は継続的に、保護者面談は全生徒しっかりできた。 | C | 地域に対しての意識付けがなかった。 | 実施項目を具体的に設定する。 |

[学校関係者評価]

保護者より

- すべての面で先生方がとても熱心で、入学させて良かった。
- 部活動においては、とても熱心で結果も素晴らしいが、終了時間が遅いのと、休みが少なく体のことが心配である。
- 生徒指導においては、厳しくて良いのであるが、もう少し自由があっても良いのではないか。
- 携帯電話は、何かあった時のために持たせても良いのではないか。

学校評議員会より

- 授業改善に向けたアンケートについては、学生も悪いことを書かない、その結果を見て比較的評価されていると考え、それで終わってしまうこともあるので、このあたりの二面性を踏まえる必要がある。気を付けることとしては、先生方のやる気を失わせないようにして授業のレベルを上げていくことである。
- 進学指導の点については、偏差値中心で大学を選んでいることが多いかもしれないが、一般入試だけではない大学の選び方を高校からの進学指導の参考にしてもらいたい。
- 「商業高校にいきたい」と考える生徒をつくる努力が必要である。今のままでは、どこに行こうかと迷っている生徒の受け入れになってしまう。そのためにも、商業高校の魅力を発信することが大切である。
- 姫路商業高校のノウハウを市内の中学校で出前授業を行う、生徒を送るなどの取組をパッケージ化して実施することもいいのではないか。そうすることで、中学校の段階で進路を迷っている生徒で、たとえばプログラミングに興味がある生徒が姫路商業に行きたいと思うようになるのではないか。
- コミュニケーション能力を高めることを考える場合、発言することができる人がコミュニケーション能力があるというわけではない。発言が苦手でも、スマホの中で自分の意見を書くことが得意な人もいる。表現方法として話すことが苦手でも、媒体を使つての表現は得意な人もいる。スマホやタブレットを使うことで、生き返る生徒が出てくるのではないか。商業高校でのやり方として進めていくと他校との違いがでる。
- 今の時代は、高圧的に怒って指導する時代ではなくなっている。普段からの生徒指導力を上げる必要がある。教員自身が生徒の人権に配慮した指導が求められると感じた。
- 3年生の地域とのかかわりで「C」がついていたので気になるが、地域の方々にも姫路商業高校を知ってもらいたいということで、荒川の地域誌を作成し姫商を紹介している。地域としては受け入れ態勢は整っているので、敬老会等にも出演いただければと考えている。
- 部活動や検定の成果から、そこに至るまでの先生方のご苦勞は大変なものであると感じる。今は、ノ一部活動デー等の取組があることから、兼ね合いが難しいが、先生方の休む時間も必要である。
- アンケートを見た場合、評価にAが多いのはいいことであるが、逆に言えば、目標設定が低いことにもつながることから、常に見直しを図る必要がある。
- 特別支援学校との交流などを通しての共生の心を育むことやいじめについても、管理職サイドだけでなく、教職員全員が意識を高く持つ必要がある。
- 生徒にやらされている感があるのではないか。以前の生徒ではないので、主体的な学びも可能ではないか。先生方自身が望む生徒像を常に持ちながら取り組むことが大切である。
- 制服変更に着手してもいいのではないか。
- 姫商ブランドの確立を行っていけばいいのではないか。広報にもっと力を入れたほうがいいのではないか。中学生を子供に持つ親世代から見た場合、高校の状況をあまり知らない方が多い。
- SNSの使用に関する講演や学びの場を持つことが大切である。本人はいじめているつもりでなくても、相手がそうとらえることもある。ネットに関することについては、十分な教育が必要である。
- 今の時代に即してスマホを有効に活用できる人材を育成することができないものか。正しく使うことができる生徒の育成が、できるような環境・雰囲気があれば、もっと良い学校になるのではないか。
- 重点目標、成果、課題、改善策等のPDCAサイクルが明確化されて、わかりやすくなっている。このサイクルは年1回ではなく、2～3回と回したいものである。その意味でも、授業計画や保護者アンケートを勇気を持って進めて欲しい。
- 現状を守り続けることは教員にとっては簡単なことかもしれないが、転換する勇気をいかに持つかである。それが次への発展に必要なことである。